

赤平市

0330 長谷川 孝雄

1 赤平市の概要

1.1 名前の由来

「赤平」はアイヌ語で「山稜のガケ」を意味する「アカピラ」に由来する。

1.2 赤平市の歴史

赤平市は、1891 年に開拓の鋤がおろされ、1897 年には道路が、1913 年には鉄道が開通した。1918 年に、茂尻炭礦が開鉱し、「石炭のまち」の歴史が始まった。

その後も人口が増加し、1922 年 4 月 1 日、歌志内村から分村して 2 級町村赤平村が誕生、さらに 1943 年 2 月 11 日町制を施行、そして 1954 年 7 月 1 日道内 18 番目の市となった。1960 年には、人口もピークの 59,430 人を数えたが、1960 年代前半から、石炭産業の衰退を余儀なくされ、1994 年には最後の一山が閉山し、赤平の「石炭の歴史」に幕を下ろした。

1.3 赤平市の市章

頭文字「赤」を図案化し、その左右に開く両端で将来飛躍発展の市勢を表わし、外円は市民の和(輪)向上団結を示し、明日に躍動する赤平市を描いたもの。1966 年 12 月 2 日制定

図 1 赤平市市章



出典：赤平市 HP

1.3 赤平市の位置

赤平市は北海道のほぼ中央部にあって、東端は東経 142 度 9 分 10 秒、西端は東経 141 度 58 分 40 秒南端は北緯 43 度 28 分 44 秒、北端は 43 度 38 分 44 秒の位置にある。東は芦別市、西は滝川市、南は歌志内市、北は深川市に接しており、空知総合振興局の中央部に位置する。東西に約 14.1 キロメートル、南北に約 18.5 キロメートルで、市域面積は 129.88 平方キロメートル。

林野率は 72.6%と市内の大半は木々に囲まれており、最高峰のイルムケップ山（862,26m）を擁する、音江連山もあり多数の山に囲まれている。

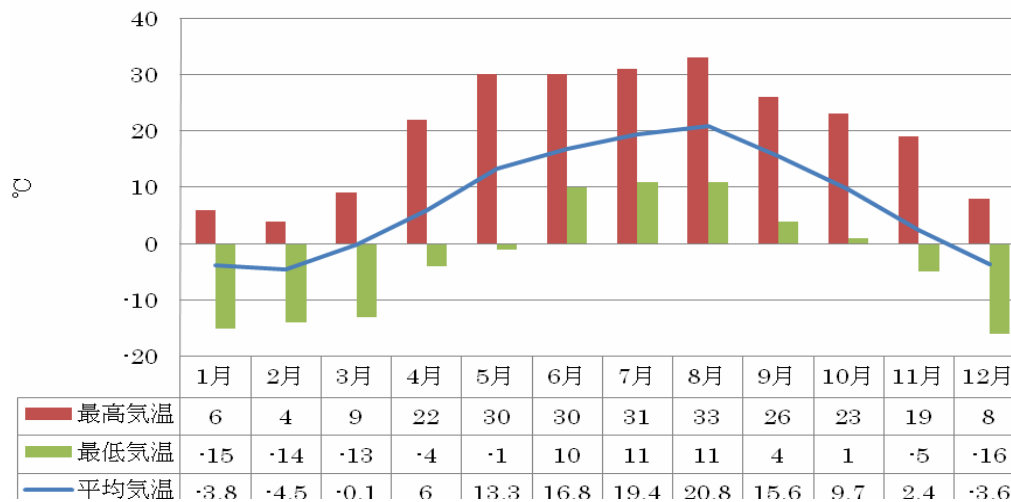
図 2 赤平市の位置



出典：空知総合振興局

2 気候

グラフ1 赤平市の気温の変化



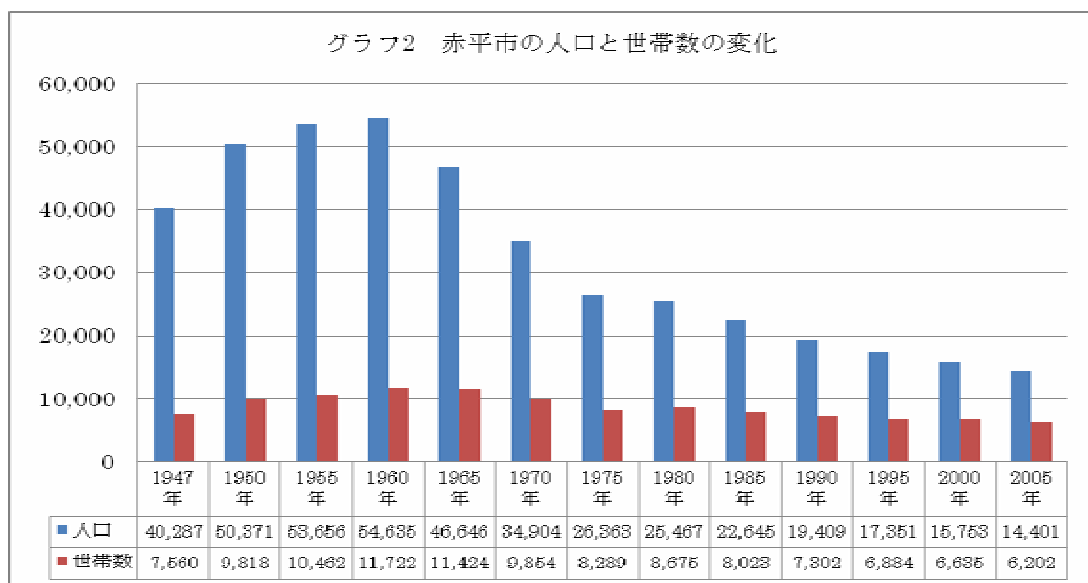
出典：赤平市 HP

赤平市は内陸特有の気候で年間の気温差が大きい。夏の気温は 30 以上を記録し、冬の気温は氷点下 20 前後を記録する。また、盆地であるため、台風もほとんど影響もなく、また集中豪雨による水害も少ない。春夏秋冬四季がはっきりしていて、それぞれの季節が楽しめる。

3 人口と世帯数の推移

赤平市は炭鉱で栄えた町である。そのため人口は年々増え続け、1960 年にはピークの 59,430 人の人口を数えた。しかし、1960 年代後半から、石炭産業の衰退を余儀なくされ人口の減少が毎年続いている。現在も人口の減少に歯止めがかかっていない状態である。

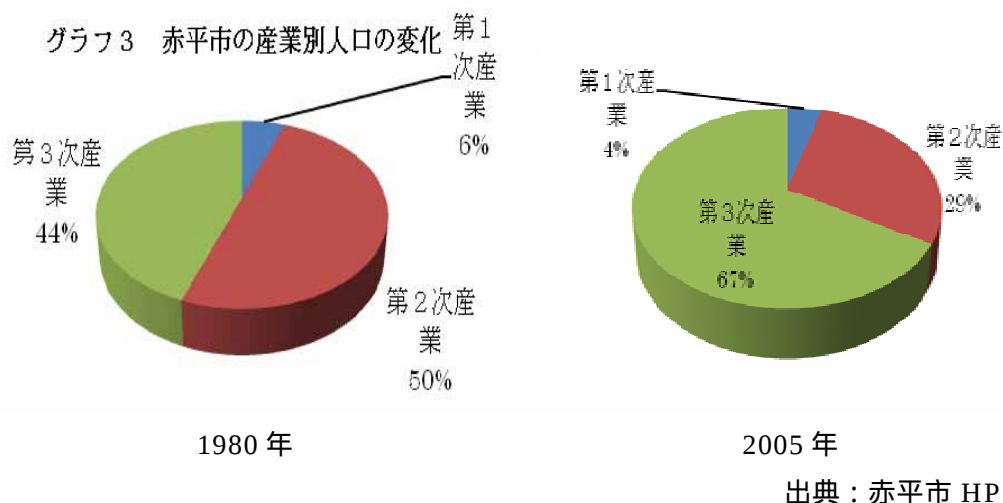
グラフ2 赤平市の人口と世帯数の変化



4 産業

4.1 産業別人口

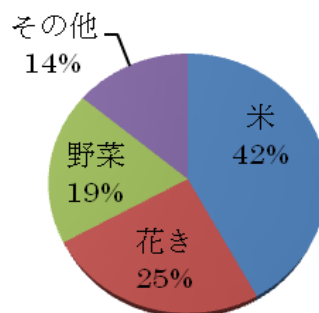
昔は産業別人口の大半を占めていた第2次産業の鉱業も衰退に伴い、現在（2005年）の労働者5,602人に対しわずか36人である。また、第3次産業のサービスが2,049人であり、現在の産業別人口の大半を占めている。



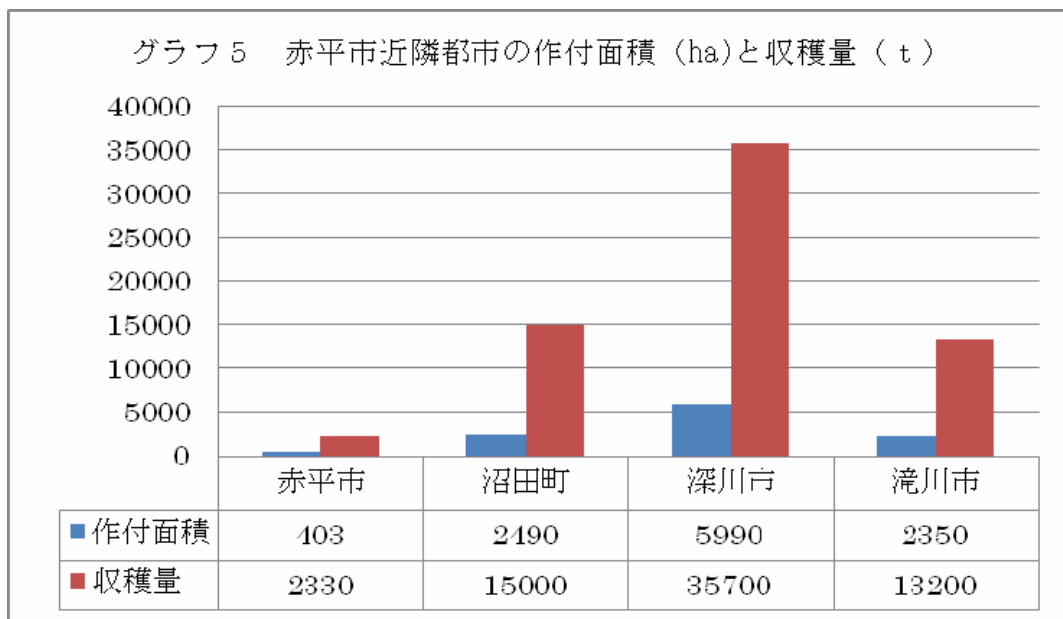
4.2 農業

赤平市の農業は米、小麦、大豆、小豆、そば、ばれいしょ、など多くの種類の作物がつくられている。米の生産は毎年2000トンで推移していて安定して生産を続けている。赤平市の農業産出額の合計は285千万円で、そのうち米は産出額の41%にあたる121千万円を占める。しかし、赤平市の農業産出額の大半を占める米であるが赤平市の近隣の都市と比較してみると作付面積・収穫量のともに非常に少ないことがわかる。

グラフ4 農業産出額の内訳



出典：農林水産省



出典：農林水産省

4.3 鉱業

赤平市の炭鉱の歴史の始まりは 1918 年の茂尻炭礦が開坑したことにより始まる。1960 年までは人口も増え続け石炭産業も栄えたが、この年を境に衰退を余儀なくされ各鉱山は閉山していき、1994 年に最後の炭鉱が閉山し赤平の炭鉱の歴史は幕を閉じた。そのなかの住友鉱業赤平石炭について紹介する。

表 1 炭鉱の歴史

1918 年	茂尻炭礦 開坑
1937 年	昭和電工豊里炭鉱 開坑
1938 年	住友鉱業赤平炭鉱・北海道炭礦汽船赤間炭鉱 開坑
1967 年	昭和電工豊里炭鉱 閉山
1973 年	北海道炭礦汽船赤間炭鉱 閉山
1994 年	住友石炭鉱業赤平炭鉱 閉山

出典 ウィキペディア

住友鉱業赤平炭鉱

米国地質学者スミス・ライマンは、1872 年から 3 年間にわたって、北海道の地質調査にあたったが、同行した助手の 1 人である坂（ばん）市太郎は、1886 年から 20 年にかけて空知を調査した。この調査により、上赤平・上歌志内地区の優良な炭層を知り、1898 年に試掘鉱区を取得した。後に坂上赤平炭礦を経営し、炭鉱開発を進めた。しかし志半ばの 1920 年に病没。やがて、この優良鉱区は 1924 年に坂炭礦が住友合資会社との共同経営を経て住友坂炭鉱(株)の主要な鉱区となった。

さらに、1948 年 8 月には、住友鉱業(株)赤平礦業所が設置され、大規模な石炭採掘が開始し、戦時下の重要物資、戦後は日本経済復興の原動力として、石炭は大増産され、赤平一の大型炭鉱へと成長した。住友鉱業赤平炭鉱の成長とともに、赤平村は農村地域から炭鉱都市へと変貌していった。

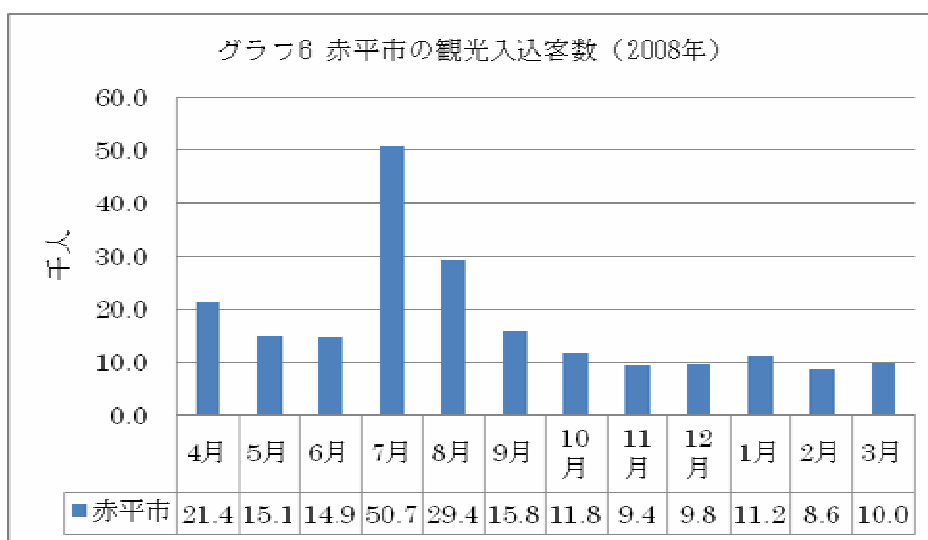
1950 年代にはいり、地下 350 メートルから上の炭量は 20 年間の稼行で枯渇し、さらに深部の開発が必要になった。深部開発により生産規模の拡大をはかるため、出炭と従業員のスピード化が望まれ、住友鉱業赤平炭鉱はビルド鉱として大規模投資に踏み切り、完成以降 1994 年 2 月まで、立坑は 31 年間、炭鉱都市赤平のシンボルとして稼行してきた。

5 観光

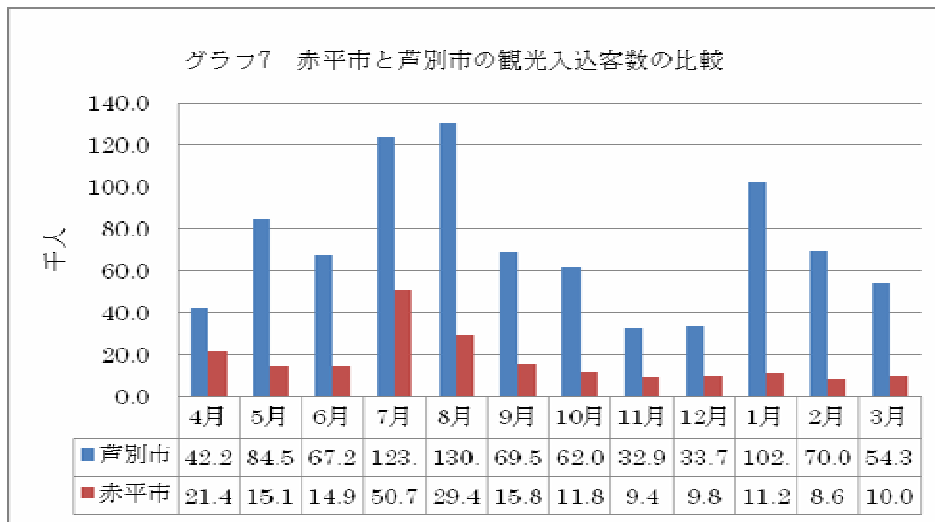
5.1 観光入込客数

赤平市の観光入込客数は空知総合振興局の中で最低水準であり、観光資源が不足しているのが現状のようだ。観光入込客数が他の月と比べ多い 4 月には赤平市で有数のイベント「らんフェスタ」が行われるため観光客が多く訪れるためと考えられる。観光入込客数が最も多い 7 月には赤平市の最大のイベント「あかびら火まつり」が行われ、毎年多くの観光客が訪れる。

また、近隣都市の芦別市と比較してみると赤平市の観光入込客数は少ないことが分かる。芦別市もかつては炭鉱で栄えたが閉山してからは人口が減少し続けている。しかし、芦別市の観光入込客数が多いのは観光施設が充実しているからであり、赤平市は観光施設が不足していることが分かる。



出典：北海道庁 観光入込客数調査報告書



出典：北海道庁 観光入込客数調査報告書

5.2 観光名所

5.2.1 日本一のズリ山階段

ふるさと創生事業のひとつとして、炭鉱の街にふさわしいシンボルをと平成2年に設けたもので、全長 583,9m。階段数は、日本一の 777 段。山頂の展望広場からは暑寒別など増毛連峰の雄大な山並みが広がる。

図3 日本一のズリ山階段



出典：赤平市 HP

5.2.2 住友赤平炭鉱立坑櫓

赤平市の中心部に近く、「ネオンのともる立坑」といわれた炭都・赤平の象徴的な存在。高さ 43.8m、深さ 600m。1963 年に総費用約 20 億円をかけて建設され、1994 年の閉山時まで使用された。

完成当時は東洋一の立坑といわれた施設。

図4 住友赤平炭鉱立坑櫓



出典：気ままに鉱山・炭鉱めぐり

5.3 イベント

5.3.1 あかびら火まつり

炭都の火を消してはならないという若者たちの発想により、1972（昭和 47）年から開催された夏のイベント。夏の宵、市内三方から集められた松明の火によってズリ山に点火し、全長 150m 全幅 100m のダイナミック

図5 火文字



出典：赤平市 HP

図6 火神輿



出典：赤平市

な火文字が描く。また、火みこしが繰り出し、「火囃節」に乗った市民おどり、火太鼓が打ち鳴らされ、武者行列がまちを練り歩く。他にもバンド演奏やお笑いライブ、歌謡ショーも実施され、2008年には55,000人の来場があった赤平市の最大イベントである。

5.3.2 らんフェスタ

「らんフェスタ」は、赤平市や地元の観光協会などで構成する「らんフェスタ赤平実行委員会」が主催。期間中、会場には南米アンデス産の巨大蘭「プレウロサリス・タイタン」が特別展示されるほか、道内各地から出展されたカトレアやパフィオ、デンドロビウム、胡蝶蘭など500鉢が並ぶ。

また、蘭の育て方に関する講演やフラワーアレンジメント教室、ミニコンサート、園芸市などさまざまなイベントが実施される。

図7 らんフェスタ



出典：北海道 365

6 参照 HP

赤平市 HP: <http://www.city.akabira.hokkaido.jp/>

空知総合振興局 HP: <http://www.sorachi.pref.hokkaido.lg.jp/>

北海道庁 HP: <http://www.pref.hokkaido.lg.jp/>

農林水産省: <http://www.maff.go.jp/>

Wikipedia:

<http://ja.wikipedia.org/wiki/%E3%83%A1%E3%82%A4%E3%83%B3%E3%83%9A%E3%83%BC%E3%82%B8>

気ままに鉾山・炭鉾めぐり: <http://wing.zero.ad.jp/~zbc54213/index.html>

北海道 365: <http://www.hokkaido-365.com/>